

東京都教育委員会
令和6・7年度
人権尊重教育推進校
(1年次)

【研究主題】

自尊感情を高め、 主体的に考え行動する生徒の育成 ～互いに認め合い支えあう関係づくり～



はじめに

校長 井上 雅子

現在、社会の激しい変化に伴い、多様な価値観が混在する中、様々な課題や困難さを抱える生徒が少なくありません。これからの社会を生きる生徒にとって、主体的に考え行動し、他者と協働しながら問題を解決する資質や能力が必要と考えます。そしてその資質や能力を支えるものが人権尊重の精神であり、その教育の充実が最も大切です。

本校は東京都教育委員会令和6・7年度人権尊重教育推進校として「自尊感情を高め、主体的に考え行動する生徒の育成～互いに認め合い支えあう関係づくり～」を主題として、人権教育の視点を明確にし、生徒が主体的に活動する授業改善に取り組んでいます。また「子供」や「インターネットによる人権侵害」の人権課題を取り上げた講演会や授業では生徒が人権課題に向き合い、考えを深める学習となっています。

研究実践の途上ではございますが、御一読いただき多くの方々の御指導、御助言をいただくことで2年目の研究を深めてまいりたいと思います。

西東京市立ひばりが丘中学校

研究主題

自尊感情を高め、主体的に考え行動する生徒の育成
～互いに認め合い支えあう関係づくり～

人権に関する法令等

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

学校の教育目標

- ・自ら学ぶ
- ・豊かな心
- ・夢の実現

目標策定の方針

- ・生徒の実態
- ・保護者の願い
- ・地域の願い
- ・教職員の願い

ひばりが丘中学校の人権教育の目標

- ・人権について知り、自分や他者の大切さに気付き、認め合う気持ちを育てる。
- ・自分の思いや考えを表現し、課題の解決に向けて行動しようとする態度を育てる。

目指す生徒像

- 第1学年 自己と他者の価値を尊重し、互いを認め合う生徒
第2学年 他者との関わりの中で自己肯定感を高め、主体的に学ぶ生徒
第3学年 自己の夢の実現を目指して未来を切り拓く生徒

人権教育を通じて育てたい資質・能力

知識的側面

- ・人権に対する正しい知識や意義について理解させる。

価値的・態度的側面

- ・自己と他者の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる。
- ・よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。

技能的側面

- ・自己肯定感やコミュニケーション能力を育てる。

普遍的な視点からの取組

- ・自己理解と他者理解を図るための学習
- ・コミュニケーション能力を高めるための学習
- ・自尊感情を高めるための学習

個別的な視点からの取組

- ・差別意識の解消を目指す指導
- ・「子供」「高齢者」「同和問題（部落差別）」「外国人」「インターネットによる人権侵害」などの人権課題に関わる、個別的な視点からの取組の充実

教員の研修

- ・講師を招いた研修の実施
- ・全職員が人権尊重の理念を理解した上で研究授業を実施

教員研修

人権尊重教育推進校（以下、人尊校）としての取組として、「学校教育における人権教育の推進」について理解を深めていけるよう、年間を通して教員研修を行った。月に1回研修会を設定し、学校教育における人権教育のために必要な基本的な知識や、人尊校としてどのようなことを中心に取り組んでいくのかを、教員全体で共有していった。

また、2学期に全教員が普遍的な視点からの取組又は個別的な視点からの取組を取り入れた研究授業を行った。教科等ごとのグループを中心に事前に学習指導案の検討を行ったり、授業後に取組の効果を検証し、改善方法を考えたりすることで、「人権教育の成立基盤としての教育・学習環境」の確立を図った。

4月



【オリエンテーション】

人尊校としての研究主題や年間計画等、本校で取り入れている話し合い活動のための「ひばりスタンダード」、「西東京あったか先生」の共通理解を行った。



「西東京あったか先生」

西東京市立学校では、全ての学校で「西東京あったか先生」「西東京あったか職員室」を宣言し、西東京市子ども条例や人権尊重教育の理念のもと、一人一人の子供たちを大切にすることをすすめている。

6月



【講義】

東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 長島 寛和 様をお招きし、人尊校としての役割や人権教育についての講義を行っていただいた。

1 学期

- 4月：今年度の研修会の取組、「ひばりスタンダード」及び「西東京あったか先生」の共通理解
- 5月：人権教育プログラムの内容の読み合わせ等
- 6月：講師の招聘による人尊校・人権教育についての講義
- 7月：2学期研究授業 指導案検討

2 学期

- 9月：研究協議や、今後の研究授業の指導案検討
- 10月：[校内研修会]
 - ・“同和問題”についての研修会
- 11月：[校内研修会]
 - ・“性的指向に関わる内容”について
- 12月：[校内研修会]
 - ・“合理的配慮”の共通理解と課題

3 学期

- 1月：[校内研修会]
 - ・特別支援教育と人権教育
- 2月：研究授業の効果及び課題の検証
- 3月：来年度の研修計画と、人尊校としての取組予定の確認や共通理解

7・9月



【研究授業の指導案検討】

7月に、普遍的な視点・個別的な視点で授業を行う際のポイントを、人権教育プログラムを使用し再度確認した。その上で、教科ごとに研究授業として取り上げる単元の検討や授業展開についての意見交換を行った。9月には、研修日までに行なった研究授業の振り返りを行うとともに、今後行う研究授業の指導案の内容の検討をグループごとに行った。

10・11月



【講義】

10月に、本校社会科教員を中心に、同和問題について理解を深める研修会を行った。また11月には、カナダに移住し同性婚をした方から、オンラインにて性的指向に関わる講義を行っていただいた。LGBTQについての基本的な知識の理解に加え、「生徒からの相談の具体的事例」について、どのような対応をしていけば良いかについて、ロールプレイングを行った。

研修後の教員の感想

- 生徒が人権の大切さに気付いて、行動に表すということを人権教育の目標として、授業なども組み立てていきたいと思った。
- 人権教育を通じて育てたい資質・能力には「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」があり、どの教科でも取組を行っていくことが可能だと考えた。
- 校内研修や講演で実際にSNSや性的指向に関する話を聞くことを通して、生徒と一緒に差別解消への取組を具体的に考える重要性を感じた。

授業における取組(普遍的な視点からの取組)

保健体育(1年)

【単元名】

「心身の発達と心の健康」

【人権教育の視点】

人それぞれいろいろな考え方や捉え方があり、その発育・発達には個人差があることを理解させることを通して、健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断する力を育む。(価値的・態度的側面)

【学習内容】

思春期は、体だけでなく心も発達していくことを踏まえ、より良い心の発達について考える。具体的には「ブレインランディング」という手法を用い、よりよく心を発達させるために有効な経験、活動、体験の3要素について話し合う。様々な意見にふれる中で、人には自分とは違った考え方や捉え方があり、それを共有することで自分の心を発達させることに気づく。



理科(3年)

【単元名】

電池とイオン

【人権教育の視点】

既習の知識や実験で得た情報から班員と協力してダニエル電池のしくみやイオンの動きを理解させる活動を通して、科学的に探究する力を育む。(技能的側面)

【学習内容】

ダニエル電池で起こっている化学変化の予想や実験結果からの考察を、班員との意見交換を行いながらまとめる。前時で実験の予想を話し合っているが、本時では別のグループでも予想の話し合いをしたり、考察を全班が発表したりすることで、違う視点の存在やそれぞれの良い点に気づき、さらに自分の考えを深めていく。



英語(3年)

【単元名】

Let's Talk②

「町中での手助け一申し出る」

【人権教育の視点】

「困っている外国人の方の問題を解決するために、相手の立場に立って手助けを申し出る活動」を通して、外国語で表現したり、伝え合ったりする力を育む。(技能的側面)

【学習内容】

「自分だったらどうするか」のプロットを作成し、それをペアで情報共有・吟味することで、より場面に応じた英語の表現を考える。ペアを次々と入れ替えて会話の練習をし、互いの良い点を取り入れる中で、自己表現力を高める。



数学(3年)

【単元名】

相似な図形

【人権教育の視点】

身近な事象について、相似な図形の性質を活用し、根拠をもって説明していく活動を通して、論理的に考察する力を育む。(技能的側面)

【学習内容】

「スカイツリーと東京タワーが同じ高さに見える位置が存在する」ことなどから、身の回りの事象から相似の関係を見いだす。グループで、仲間の意見を聞きながら様々な問いをつくる活動を通して、相似の関係や性質を活用して解決できる問題があることに気づく。



英語(2年)

【単元名】

Unit Activity2「アンバサダー

になって各都道府県の魅力を伝えよう」

【人権教育の視点】

「相手により伝わるために出来る工夫」を考え、スピーチテストに向けて練習やする活動を通して、英語で表現したり、伝え合ったりする力を育む。(技能的側面)

【学習内容】

より良いスピーチにするための工夫を、「良いスピーチのための3つの柱」をもとに考える。班員間でのアドバイスタイムや中間指導で、良い表現や工夫、班活動でのやり取りを共有することで、より表現力を高める。



美術《特別支援学級》

【単元名】

鑑賞「浮世絵 歌川広重」

【人権教育の視点】

浮世絵の造形的な特徴を理解しながら作品鑑賞をしたり、美術作品の美しさを言語で伝えたりする活動を通して、豊かな情操を培う。(価値的・態度的側面)

【学習内容】

「東海道五十三次」という作品について、動画を鑑賞したり、クイズ形式で作品の理解を深めたりする。その過程で気に入った作品を班で意見交換した後、好きな理由を文章でまとめ、発表する。これらの活動を通して、豊かな感性や思考力を育て、自分の表現に活かしていけるようにする。



授業における取組(個別的な視点からの取組)

社会(2年)

【単元名(人権課題)】

「差別からの解放」
(同和問題)

【人権教育の視点】

明治政府が行った諸改革について調べる活動を通して、「解放令」でも差別がなくなってきた実態を理解させ、差別がない社会を実現しようとする意欲や態度を育成する。

【学習内容】

「解放令」が出されながらも差別がなくならなかった実態を様々な人の視点から考察をして、ペアやグループで話し合い、発表を行う。各グループの発表を通して、社会の中で自分のできることや社会のあるべき姿を考え、偏見や差別のない社会をつくっていくことの大切さに気付く。



技術・家庭(1年)

【単元名(人権課題)】

「家族が暮らしやすい住まい方を考えよう」(高齢者)

【人権教育の視点】

高齢者の身体の特徴を理解し、関わり方や高齢者の住まいについて考える活動を通して、高齢者への理解を深めるとともに、社会における不合理な偏見や差別を解消していこうとする態度を育む。

【学習内容】

高齢者疑似体験セットを利用し、高齢者の身体を理解したうえで、和式と洋式ではどちらが暮らしやすい住まいかを班で話し合う。また高齢者虐待があることを知り、地域の中で、中学生が高齢者に対してできることを考え、支える立場であることに気付く。



技術・家庭(2年)

【単元名(人権課題)】

「他人に迷惑をかけたり不快にさせたりしていないか？」
(インターネットによる人権侵害)

【人権教育の視点】

自分や周りの人が加害者にも被害者にもならないために、インターネット上での問題について考える活動を通して、インターネット上でのプライバシー侵害や名誉毀損等の人権侵害が多発していることを理解し、正しい行動をとっていかうとする態度を育成する。

【学習内容】

インターネット上の誹謗中傷、ヘイトスピーチなどの存在について学んだ上で、「言論の自由」と「誹謗中傷」の違いについて、班ごとに討論を行う。また、「誰かを傷つけるような書き込みをしない」ことは当然であるが、「ネット上の人権侵害を根絶するために、国、企業、または個人で今後必要なことは何か」の話し合いを行う。

話し合いの中で、自分の行動により知らず知らずのうちに他人の権利を侵害してしまう事の恐ろしさに気付いたり、個々の意識の改善とともに、社会全体での対応の必要性やその方法等について考えたりする。



各授業での生徒の感想や考えた事(ワークシート等より)

○高齢者がどれだけ体が重いと感じているのか、つらいのかなどが分かった。これからは今まで以上にバスや電車で席をゆずったり、自分のおばあちゃんを大切にしたりしていきたい。特に、自分のおばあちゃんのはめまいや血圧などで困っていたので、自分にできることを探して積極的に取り組んでいきたい。【技術家庭(1年)より】

○自分たちが何気なく成長できているのは、人との関係をしっかりと築いているからだと思う。これからも人との関係をきちんと築いていくことで、相手の気持ちが分かったり、自分の意見を言えたりするようになり、社会性や知的機能・情意機能など、全ての成長につながると思った。【保健体育(1年)より】

○スピーチは、やってみると話すことで精一杯だった。ジェスチャーや表情があるととっても良いという意見をもらったので、大きなリアクションなども心がけたい。また日常会話でも、スピーチと同じように一方的に話すのではなく質問をしたり、答えに対してリアクションをとってみたいといった工夫ができると思った。【英語(2年)より】

人権教育講演会

道徳授業地区公開講座

【講師の先生】

西東京市 子どもの権利擁護委員 谷川由起子 氏

【講演タイトル(人権課題)】

「自分の権利・ひとの権利」(子供)

【講演内容】

“今と未来を生きる子どものために”をテーマに、“権利”とは何か?や、「子供のもつ権利」について御講演いただいた。クイズ形式の質問を交えつつ、「子どもの権利条約」や「西東京市子ども条例」の内容についても分かりやすい説明があった。また、「互いの行き違いからいじめに発展した事例」について、登場人物それぞれの立場で考えるグループワークを行った。生徒たちは、「登場人物それぞれの権利はどう扱われていたか」や「同じ事が起きたら、どう行動する?」といった視点で、活発に話し合いを行い、考えを深め合うことができた。



学校行事

【講師の先生】

一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ協会代表
スマイリーキクチ 氏

【講演タイトル(人権課題)】

「情報モラル、言葉の重さ、命の大切さ～中傷の加害者を減らすために～」
(インターネットによる人権侵害)

【講演内容】

御自身がネット中傷被害を受けた時の恐怖・悩み・葛藤をはじめ、インターネットに潜む危険性、ネット犯罪の被害者にならないための対策や対処法、言葉の責任や命の大切さについてお話をいただいた。講演を聞いて考えた事について意見を交換し合い、考えを深めた。夏休みを迎えるにあたり、スマートフォンやタブレットの使い方を考え直すよききっかけとなった。



講演での生徒の感想や考えた事(ワークシート等より)

- 相手への言動に限らず、価値観を認め合うなど互いを尊重し合う姿勢が大切だと思えた。(子供)
- 加害者にとってはただ文字を打ち込む作業だが、被害者にとっては命に関わる危険な事だと改めて分かった。(インターネットによる人権侵害)

その他の取組

生徒会放送

昼食中の放送の時間を利用し、オンラインで生徒会役員による“いじめについて”の啓発放送を行った。

生徒会長が「“いじめ”は、周りの環境によって発生しやすくなるため、させない環境を周りの人たちでつくっていくことが大切だ」と訴えかけ、いじめについて改めて考える機会をもって欲しいと全校に伝えた。



あいさつ運動

「学校全体を明るくしよう」というテーマのもと、生徒会役員や生活委員を中心に定期的に行っている。地域との連携を図るために、可能な限り校外で実施し、7月には「社会を明るくする運動」とも連携して活動を行った。ボランティアでの参加も増え、“みんなでこの活動を盛り上げよう”という意識を高めることができた。



今年度の成果と課題

○講演会や研修を通して、教員自身が様々な人権課題についての正しい知識を得たり、どういったアプローチが生徒の人権感覚を磨くことにつながるのかを理解したりすることができた。特に、その具体的な手段や、より効果的な実践例について、研究授業や協議会で学び合うことができた。生徒のもつ人権感覚も、グループワークや普段の生徒間のやりとりのなかで成長が見られ、言葉の使い方や仲間への対応・配慮など、温かさを感じる場面も多く見られた。二次次は、様々な人権課題についての問題意識をさらに高め、解決に向けての方法を生徒自身がより主体的に考え、実践していける環境を整えていく。